

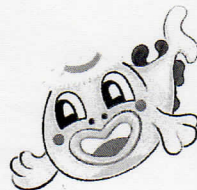
『講左衛門さん、今日は、掛け軸の話でまっすん。掛け軸はたくさん残っているでまっすん？』
『たくさんというわけではないんじゃが、この掛け軸から、大我講の歴史を知ることができるんじゃ。貴重な資料なんじゃよ。まずは、17号でも話した亀岩八大龍王の掛け軸の話をしようかのう。軸の字を書いたのは、大寄友右衛門じゃ。東円寺に残されておるんじゃが、真中「亀岩八大龍王」両脇には八大竜王すべての名前が書かれておるんじゃ。同じ字体で、真中「朝日仙元大菩薩・右上「東叡山」・左上「御免」また、真中「小御嶽大権現」・右下「太郎坊」・右下「大天狗」「小天狗」と書かれた掛け軸3幅は、民宿原の家に現存しておるんじゃ。この3幅の掛け軸は、1995年に「富士山麓・忍野の民話と民謡」著者後藤義隆氏が出版した本に、写真で掲載されておるんじゃよ。「龍」という字が、登り龍のように生き生きと書かれておるんじゃ。』
『すごい話でまっすん。知らないなんてもったいないでまっすん。』

『富士講は、富士講独自のお経のようなお唱えがあるんじゃが、大我講も独自のお唱えの文句があったようじゃ。その文句が軸で残されているんじゃ。とても大きな掛け軸じゃぞ。この軸も、友右衛門が書いたものなんじゃよ。また、拓本（石碑の字を拓本用の紙に写したもの）が軸になって残っておるんじゃ。この石には、「青洲信書」とあって、石碑の字を書いた人の名前が残っておったんじゃが、さて、「青洲信」と言われても、誰の事だかさっぱり分からなかったんじゃ。しかし、「青洲信」と聞くと誰なのか分かる地域があるんじゃ。それが市川三郷町（旧市川大門）の人なんじゃ。名は、渡辺信とって、初代市川大門の村長をした人だったんじゃ。市川大門村のために尽くした人だったんじゃ。富士川が氾濫した時に、国に働きかけて堤防を直したんじゃ。その功績から、青洲堤という名前がついたんじゃよ。また、関東大震災で東京大学の図書館が焼けてしまい困っているのを見て、10万冊あった青洲の本を寄付したそうなんじゃ。現在でも青洲文庫として、東京大学図書館に残っているんじゃよ。多くの人々を助けた青洲が、大我講と深い関係にあったことも興味深いことじゃな。しかし、残念なことは拓本の石碑が何処にあるのか分からないんじゃよ。見つかるといいんじゃが・・・』

『とても、素敵なお話でまっすん。次回はどんな話でまっすん。』
『忍野村議会で、「忍野八海ものがたり」の代官所の名前が間違っているのではないか？という質問がでたそうじゃ。時代によって政治が変わるからなのう。政治が理解できなければ、分からんかもしれん。』

当時の政治の話をしようかのう・・・』

クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん・・・



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)